札学保

札幌市学校保健会

No. 161

2024. 3. 18

事務局　〒004-0864 札幌市清田区北野４条５丁目4-80
札幌市立北野台小学校
TEL (011) 882-5281　FAX (011) 882-2792
学校保健会HP http://www7b.biglobe.ne.jp/~satsugakuho/

健診時のプライバシー

札幌市学校医協議会　内科学校医　**岡村暁子**

皆様　いつも札幌市学校医協議会の活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。令和５年度から札幌市学校医協議会の会長を務めております内科学校医（小児科）岡村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

数年前から全国の健診時の検討事項として、健診時にどのように子どもたちのプライバシーを守るのかということが話題になっている。それまでの内科健診時には男子女子ともに診察時には上半身脱衣の状態で診察をすることが多かったと思われる。診察を待つ間でも、お互いが見える空間で、あるものはすでに脱衣の状態、あるものは脱衣の上から軽くタオルなどを羽織る状態で診察を待つように指導されてきただろう。

しかし、子どもといえども自分や他人の体に対して感じ方が単純に分けられるわけではないことが認識され始め、学校現場でもLGBTQ＋も含めた配慮が求められるようになった。これをきっかけに全国から内科健診時のプライバシーの配慮を求める声が多く上がるようになった。これに対して文科省は健診の精度低下の懸念から、医師が診察する場面では脱衣が基本であることと解答していた。

しかし今年に入って、新たな文書が発出され、健診の場全体ではどの場面においても各個人のプライバシーが守られる配慮が必要であるとの考えが示された。各学校や学校医にこの文書の情報は周知されてきているだろう。医師による診察の場面でも、原則脱衣ではなく、診察の精度が下がらないことが条件であるが、薄いものを着衣した状況も検討するといった文言が書かれている。また診察時は他の子どもからは診察中の状況がわからなくするような、ハード面ソフト面それぞれの環境設定を求めている。

個人的には以前からどんな年齢の子どもであっても、医師の前ではあらわに裸を晒すのが当然ということには疑問があり、学校側と協力していろいろな方法を試してきた。昨年から診察の場面でも着衣を取り入れてみたが、これが意外に難しかった。それぞれの子どもが着てくる下着や洋服がさまざまで、その中で脊柱側わん検診を含めた内科健診を行うのは個々の服に対する対応が必要だった。事前に診察時に着てもいいものを家庭に通知してもらっていたが、中々こちらの意図が伝わっていないことも多く、通知を出してくれた養護教諭と、どのような通知にすると理解してもらえるのかと頭を悩ませている。

時代の変化に合わせた対応は大切である。しかしそのためには学校関係者、医療関係者、保護者、そして子どもたちそれぞれの理解と協力が必要であろう。それは簡単ではなく時間と努力が求められると考えている。この後も皆様と協力しながら子どもたちの健康と幸福を守っていきたいと思う。

第 39 回　札幌市学校保健会　研究大会
令和５年 12 月２日（土）　ホテルライフォート札幌

第 39 回札幌市学校保健会研究大会が、令和５年 12 月２日にホテルライフォート札幌にて開催された。３年ぶりに会同のみの開催となり、約 60 名の参加があった。

今年度の研究は５か年計画の４年目にあたる。当日は、本会研修部長　丸山悠から研究の概要の説明、４部会からの研究発表、最後に、藤女子大学大学院人間生活学研究科長の庄井良信教授から講評をいただいた。

【健康教育部会】
緑丘小学校　主幹教諭　丸山　悠　氏

健康教育の在り方について議論を重ねてきた当部会は、専門家と連携し、これまで多く見られた「『怖い』『危険』を知り確かな知識を得て自分の生活でブレーキを踏む力を育てる健康教育」に加えて、「よりよい自分を目指すために、自分の生活を見直しアクセルを踏む（調整する）力を育てる健康教育」に挑戦していきたいとの提案がなされた。小児科医と連携して緑丘小学校で実践した睡眠の弊害について考える授業では、子どもたちが知りたいと思ったことを主体的に調べられるよう、複数の資料を提示し、ICT の活用も行っていた。

【保健管理部会】
医師会　眼科学校医　天野　珠美　氏
真栄小学校　教諭　三浦　直樹　氏

眼科医と連携して真栄小学校で実践した目の健康の学習では、「眼軸長」をキーワードとして近視になる仕組みを理解し、「やってみよう！」に繋がる展開であった。専門家からの確かな知識を得ることにより、子どもたちが自分の生活の振り返りに繋げることができた。今後、どう実践力をつけていくのか、生涯にわたって自分を大切にしていくのかが課題となっていくとまとめられた。

【心の健康部会】
小学校長会　髙橋　直之　氏

当部会からは、コミュニケーション能力向上のために市内の小学校２校で行った「あいさつ運動」の実践報告があった。北区の小学校では「あいさつ＋一言」、南区の小学校では「毎朝玄関で教職員のメッセージ動画を再生」という方法で行われていた。実践後の、児童・保護者・教職員にアンケート調査では、コミュニケーション能力の向上やいじめ・問題行動の防止、地域の防犯効果が期待できるとの分析がなされた。

【地域保健部会】
PTA 協議会　長﨑　教尚　氏
札幌歯科医師会　佐藤　友昭　氏

学校・学校医・保護者のそれぞれの立場から、連携の具体的なアイデアが提示された。その中でも、歯科医からは「歯のけが（脱臼）」について、抜けた歯の正しい扱い方、用意しておくとよい応急セットや問診チェックリスト等、具体的な情報をお伝えいただいた。学校保健委員会は、学校と地域医療機関及び PTA とが繋がれる場所でもあることから、今回のアイデアのように医療機関から具体的な治療法を提示・共有等をしながら、学校保健委員会活性化への一歩としてほしいと結ばれた。

不登校の子ども理解と
ウェルビーイング・マネジメント
―「児童生徒自らが健康を創りだす
実践力の育成」を目指して―
藤女子大学大学院　人間生活学研究科長　教授　庄井　良信　氏

この３年間のコロナ禍で、安心と安全の中で声を聴き合い、対話し、自分の物語を紡ぎ合える穏やかな幸福（well-being）につながる様々な経験が奪われ、また、学校に行っても緊張感や不安が続くようになり、不登校が急増した。子どもの中にある自己回復力を育てていくことが教育であり、自分で自分の心の舵を取ることが健康の維持・増進にも繋がる。専門性を持って対話をしている札幌市学校保健会のように、学校の教員と地域の専門職の人々が子ども理解を深め合って、子どもの人生を真ん中に置いて複数で見守っていけることが理想的と話された。

札幌市立高等学校・特別支援学校長会「教育相談・特別支援教育推進委員会」の活動について

市立札幌山の手支援学校　校長　宗石　健太郎

■はじめに

本校長会は、「札幌市立高等学校・特別支援学校・中等教育学校の管理運営に関する調査並びに研究協議を行い、もって札幌市立高等学校・特別支援学校・中等教育学校の振興を図る。」ことを目的とし、以下の事業に取り組んでいる。

1 学校管理運営に関する研究協議　2 教育上の調査研究　3 会員の研修

4 札幌市教育委員会との連携　5 関係諸団体との連携　6 その他必要な事業

今回はその中で、校長会が担当し、生徒の発達や多様な困りに応じた手立てや、生徒の自立に向けた支援方法についての理解を深めること等を目的とする「教育相談・特別支援教育推進委員会」での今年度の活動について紹介する。

■第 1 回教育相談・特別支援教育推進委員会（8 月 23 日（水）　研修・情報交換）

札幌市立高等学校、特別支援学校各校の教育相談・特別支援教育推進委員による第 1 回推進委員会を、4 年ぶりに集合形式で開催した。まず、北星学園大学社会福祉学部・教職課程センター　田実　潔　教授をお招きし、発達などと関係して配慮が必要な生徒への支援等についてご講演いただき、生徒への具体的な関わり方や、就労支援等についての理解を深めることができた。

講演の後、委員が 6 グループに分かれ、勤務校の現況報告と、1 学期中に発生した事例の情報交換を行った。対応が困難な事例について意見し合うなど、積極的に交流する様子がみられていた。会の終わりに、札幌市教育委員会学校教育部学びのプロジェクト担当課　西野　功泰　係長、学びの支援担当課　石川　大地　係長から、学校側の困りに寄り添っていただきつつ、教育相談・特別支援教育に関する多くのご助言をいただくことができた。

■第 2 回教育相談・特別支援教育推進委員会（11 月～ 1 月　研修動画の作成と配信）

ヤングケアラーについて、Mental-Consul 代表　相内　雄介　氏に研修講師を依頼した。まず、「札幌市の策定したヤングケアラー支援ガイドライン」等について改めて各推進委員が読み込んだ後、さらに実践的なイメージを深堀したい箇所を推進委員に上げていただき、ヤングケアラー支援実践者である相内氏からの解説をオンデマンドで視聴し、ヤングケアラーへのチーム支援による対応等についての理解を深めることができた。

また、市立高等学校・特別支援学校教員を対象として、ヤングケアラーへの対応等について広く共通理解されるよう、視聴した内容を冬季休業中に動画配信した。

■おわりに

第 1 回推進委員会では集合開催の良さ、第 2 回推進委員会ではオンライン開催の良さをうまく活用することができた。生徒の多様な困りについての理解と対応については、生徒個々によって様々であるため、多くの関係者で協力し合い、助け合いながら対応していくことが大切である。今後も、研修の実施方法や内容も含め、創意･工夫を凝らしながら、生徒のすこやかな育ちに資する取組を進めていきたいと考える。

（内容については「札幌市立高等学校・特別支援学校研究紀要」より一部抜粋）

専門の立場から

札幌市 PTA 協議会の活動について

札幌市 PTA 協議会　理事
深谷　正史

札幌市 PTA 協議会は、市内の幼稚園・小学校・中学校合わせて、301 校（園）が加盟している社会教育関係団体である。また、区ごとに PTA 連合会が設置されており、学校単位、区単位、また全市での活動が行われている。活動の単位は違っていても、保護者の立場から、子どもたちの健全育成を願った活動を行うという基本的な方針のもとで活動を行っている。

札幌市 PTA 協議会では毎年、加盟する全単位 PTA を対象として、札幌市教育委員会に向けた要望をとりまとめ、「札幌市文教施策に関する要望書」として、札幌市教育委員会に提出し、意見交換を行っている。今年度、学校保健に関連するものとしては、熱中症対策としてのエアコンの設置や、不登校児童生徒のための学びの場の確保に向けた取組の充実などを要望として挙げている。エアコンの設置に関しては、2 年ほど前から挙げられていた切実な要望項目であったが、札幌市教育委員会より、緊急措置として来年度夏までに、保健室、普通教室及び特別支援学習室へ移動式エアコンを整備するとの回答があったところである。また、令和 9 年度までに全教室等へエアコンを整備する取り組みを進めるとのことで、子どもたちの保健の向上と、学びの環境が大きく改善することは、保護者としても大変喜ばしく思うとともに、ここ数年の夏の暑さを思うと安堵することができる。

その他今年度は、「第 70 回日本 PTA 北海道ブロック研究大会札幌大会」が 10 月 21 日・22 日の 2 日間にわたり全道から約 1000 名の PTA 会員が参加し開催された。1 日目は、ロイトン札幌を会場に、7 つの分科会（うち 2 つは zoom 開催）が、2 日目はカナモトホールで「未来のテレビを考える会」の代表理事　西田二郎氏、藤村忠寿氏による講演が行われた。全道の PTA 会員が札幌に集い「いまこそつながろう、そして認め合おう」の大会スローガンのもと、PTA 活動に関わる関係者と共に、これからの PTA がすべきことを考え行動していくための学びを深めることができた。

札幌市 PTA 協議会は今後も、学校保健会をはじめとして、関係団体・機関と連携しながら、家庭教育、社会教育、学校教育、安全教育など、子どもたちの健全育成を願った活動を行っていきたい。

心も体も元気はつらつに

札幌市立発寒小学校　栄養教諭
伊藤　菜摘

令和 5 年度より、養護教諭の田村教諭とともに、保健指導と食指導を融合した健康教育「はつらつタイム」の実施を始めた。この教育活動には、本校の課題である「健康意識の低さ」の改善、児童自身が健康に関心をもち、「心も体も元気はつらつに過ごしてほしい」という願いを込めた。

実施回数は 4 回、内容は熱中症、健康 3 原則（睡眠、食事、運動）、目の健康、冬休みの過ごし方など、養護教諭と栄養教諭が季節や行事によって伝えたい内容や、本校の健康課題などをテーマに設定している。両教諭が音声を入れた動画を、予め設定した期間内に、担任が動画とワークシートを用いて学習を行うという流れである。動画の視聴後、児童は「元気はつらつ宣言」を行う。これには、自らめあてを決めて取り組むことで、自分自身の健康を維持していこうとする意識や実践力を高めるねらいがある。また、健康教育を行う上で欠かせないのが保護者の存在である。その日に学習した内容が明確となるよう、保護者あて文書を配付し、家庭でも話題にしていただくようお願いしている。

長期休み明けは、生活リズムが崩れやすく、また、心が不安定になりやすい。そのため、夏休み明けすぐに、健康三原則である「睡眠、食事、運動」をテーマとした、はつらつタイムを実施した。生活リズムを整えることは、心の安定にもつながりやすい。はつらつタイムの翌日から 1 週間を「元気はつらつ週間」と設定し、自ら決めためあてを 1 週間取り組み、評価をする。取組の最後には、保護者からもメッセージを書いていただくのだが、児童への励ましの言葉はもちろんのこと、「こういう機会をいただけてありがたかった。」「一緒に頑張って取り組むことができた。」といったコメントもあり、家庭での協力をより一層強く感じた。

様々な情報が錯綜するこの時代に、子どもたちが生涯を通じて健康に過ごすためには、どのように生活すると良いのか、自らが考え判断し、実践する力を育成していきたいと考える。今後も、養護教諭と栄養教諭が連携した学びの場づくりを推進していきたい。

編集後記

数多くの所属団体の方々のお力添えにより、今年度の活動が無事に終了しました。研究大会では、様々な学校保健関係者の方々からご意見をいただき児童生徒の健康について考えることができました。次年度も保健会の活動へのご支援・ご協力をお願いいたします。本号発刊に当たり、お忙しい中、ご寄稿いただいた先生方、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

〈広報部：中塚・堂前・新谷〉